



株式会社クラレ

2023 年度第 2 四半期決算説明会

説明者

代表取締役社長 川原 仁

取締役・常務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治

2023 年 8 月 9 日

[億円]

	2023年度上期	2022年度上期	増減
売上高	3,810	3,580	230
営業利益	410	381	29
経常利益	385	379	6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	218	242	△24
	参考		
円／ドル（平均）	135	123	
円／ユーロ（平均）	146	134	
国産ナフサ 千円／kl	68	72	

川原：皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、クラレグループの決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。社長の川原仁です。それでは早速、2023 年度第 2 四半期の決算説明を始めさせていただきます。

スライドの 2 ページ目をご覧ください。

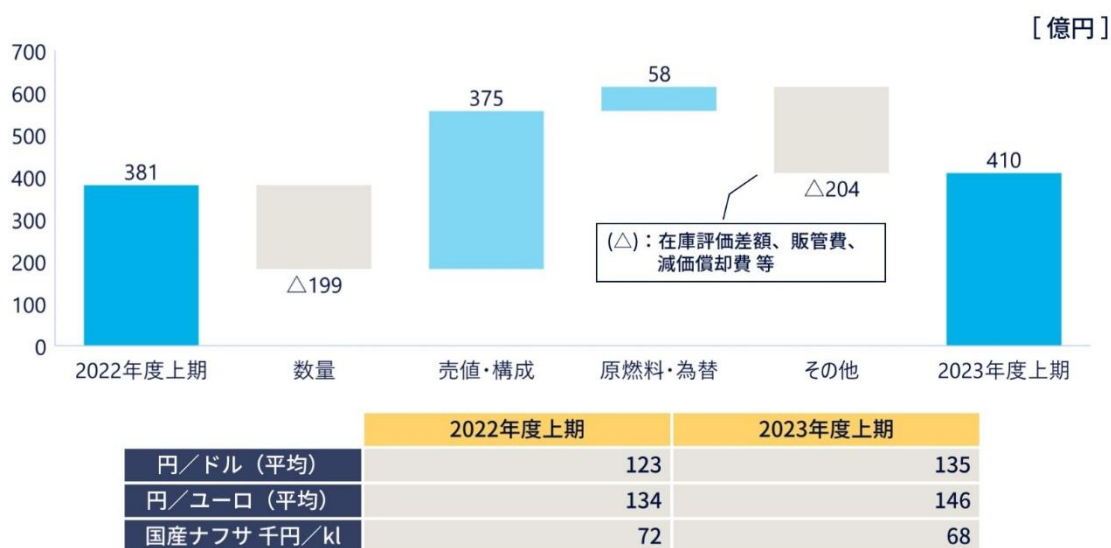
23 年度上期につきましては、サプライチェーンの混乱が収束してきたこと、半導体不足による供給制限が緩和したことなどによって、一部の地域を除いて、緩やかに経済が回復しました。一方で、インフレ抑制のために各国の金融引き締めが継続したこと、あるいは回復が年初期待されたものの、力強さを欠く中国経済、そして出口の見えないロシア・ウクライナ情勢など、先行き不透明な状況は続いております。

このような環境の中、当社グループの売上高は、前年同期比 230 億円増の 3,810 億円、営業利益は、29 億円増の 410 億円、当期純利益は、第 1 四半期に米国エバール火災事故訴訟関連の最後の特別損失計上があり、24 億円減の 218 億円となりました。売上高、営業利益、経常利益につきましては、上期としては過去最高を更新いたしました。

なお、為替及び原燃料の実績につきましては、資料にお示ししてあるとおりです。

2023年度 上期営業利益増減分析

kuraray



© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

3

次に、3 ページ目をご覧ください。このスライドで、営業利益の増減要因のまとめを示しております。

左から、数量につきましては、景気減速により販売数量の減少や生産調整など合わせて約 199 億円の減益要因となっております。一方で、販売価格の改定及び高付加価値品へのシフトが功を奏しまして、売値・構成では 375 億円の増益要因となりました。その他につきましては、原燃料価格の変動あるいは在庫評価差額、それから減価償却費を含む経費の増加などによって、204 億円の減益要因となっております。

		2022年度	2023年度上期	2026年度 目標
財務 KPI 	ROIC	7.0%	6.7%	8%
	EBITDA※	1,526億円	777億円	1,700億円
	ROE	9.0%	6.4%	10%
	EBITDAマージン（参考）	20.2%	20.4%	23%
	※営業利益+減価償却費			

それでは次に、4 ページ目をご覧ください。このスライドでは、中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた財務 KPI の、23 年度上期の実績をお示ししております。

各 KPI の 23 年度上期実績は、ROIC につきましては 6.7%、EBITDA が 777 億円、ROE は 6.4%という結果となりました。今後も引き続き、資本効率とキャッシュ創出力の向上に努めてまいります。

[億円]

	2023年度予想 (2023年5月12日から変更無し)	2022年度実績	増減
売上高	8,100	7,564	536
営業利益	840	871	△31
経常利益	790	841	△51
親会社株主に 帰属する当期純利益	470	543	△73

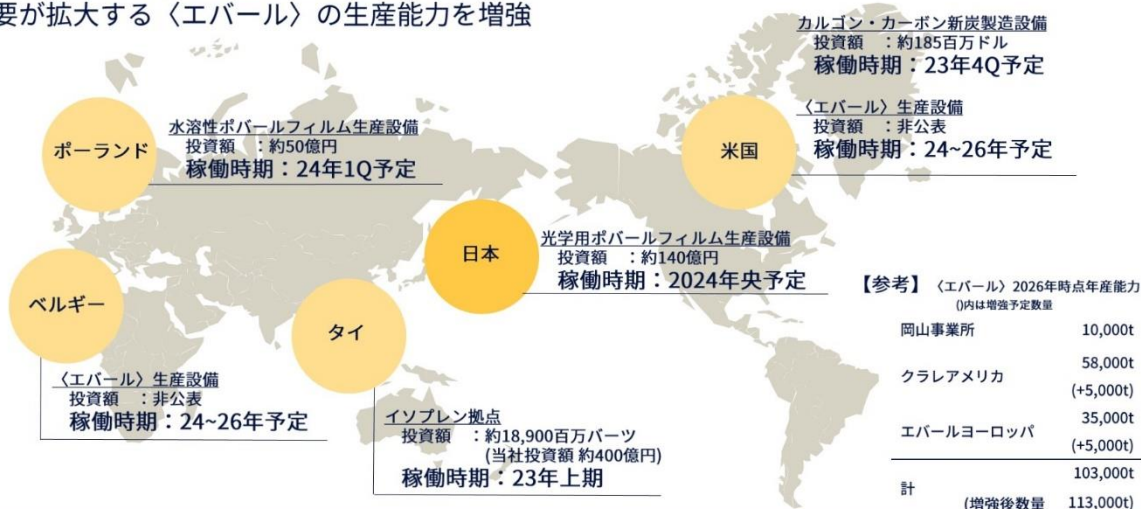
<参考>

円／ドル（平均）	138	132
円／ユーロ（平均）	148	138
国産ナフサ 千円／kl	66	75

5 ページ目をご覧ください。

上期実績は、想定を上回る進捗となりました。しかしながら、一部の事業あるいは地域において、需要の回復が遅れていることから、通期業績の予想につきましては、先日 5 月 12 日に公表した金額を据え置き、売上高は 8,100 億円、営業利益は 840 億円、当期純利益は 470 億円といたします。

- 生産・供給体制強化に向け、主要プロジェクトを着実に進行
- イソプレン タイ拠点は23年上期に稼働
- 需要が拡大する〈エパール〉の生産能力を増強



© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

6

次のページ、6 ページ目をご覧ください。このスライドでは、実行中の主要プロジェクトの進捗についてお示ししております。

イソプレンのタイ拠点は、23 年の上期に稼働を開始しております。大型の設備投資であり、稼働率の向上にはやや時間がかかりますが、ビニルアセテートに次ぐ事業の柱となるように、早期の収益貢献を目指しております。

また、現在アジアでの新プラント建設の検討を進めておりますエパールにつきましては、拡大する需要に応えるため、その前段として、既存設備において増強を行っております。この増強により、26 年時点ではトータル生産能力が約 1 割、1 万トン、拡大する予定です。

- 中期経営計画「PASSION 2026」の各施策を着実に実行し、企業価値を向上

資産効率の向上、株主還元の充実

- 社会・環境価値、経済的価値の2軸で事業評価し、ポートフォリオを高度化。ROICを活用し資産効率を改善・向上
- 成長投資やM&Aを通じ、資源配分を重点的に行う事業を強化、拡大。投資効率を意識して実施
- 収益の拡大により、株主還元を充実

ROEの向上、26年目標 10%

イノベーションの創出、安定的な利益の拡大、成長ストーリーの共有・理解深化

- イノベーションネットワークセンターと研究開発本部の両輪でイノベーションの創出を加速
- コア事業の持続的な成長。イソプレン タイ新拠点や活性炭など、大型投資の早期収益化
- GHG排出削減計画の着実な実行に加え、環境貢献製品が創出する市場価値を製品・サービス価格に反映
- 米国訴訟は解決
- 個別対話や経営説明会を通じて当社の成長ストーリーを共有し市場での理解深化に努める

PERの向上

引き続き、7 ページ目をご覧ください。このスライドでは、当社の企業価値向上に向けた取り組みをお示ししております。

ROE につきましては、資産効率の向上及び株主還元の充実を通じて、2026 年に 10%の達成を目指しております。また、これまで懸案だった米国の訴訟が解決いたしました。今後はこれまで以上に、イノベーションによる新規事業の創出、既存事業の持続的な成長に注力し、安定的な利益の拡大を目指してまいります。

- 収益の拡大により、株主還元を充実



8 ページ目をご覧ください。

中期経営計画の株主還元方針は、総還元性向 35%以上かつ 1 株当たりの配当 40 円以上を、基本方針としてお約束をしております。収益拡大を通じて株主還元を充実するということを、標榜しております。この方針のもとで、足元の業績動向も踏まえて、23 年度の中間及び期末の配当をそれぞれ 1 円増配し、年間 50 円とさせていただく予定としております。これにより 23 年度の配当は、22 年度に比べて 6 円の増配となります。先ほどの通期予想の当期純利益、470 億円を前提として、総還元性向は 35.6%となる予定であります。

以上、私より 23 年度第 2 四半期の決算について、概要を説明させていただきました。続きまして、取締役常務執行役員の多賀より、決算の詳細についてご説明をさせていただきます。

セグメント別 売上高・営業利益

kuraray

[億円]

	2023年度上期		2022年度上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	1,989	402	1,854	336	135	66
イソプレン	318	△27	319	25	△1	△52
機能材料	934	57	778	33	156	24
繊維	302	7	318	38	△16	△31
トレーディング	290	23	297	28	△7	△5
その他	229	6	237	12	△8	△6
調整額	△251	△59	△223	△91	△28	32
合計	3,810	410	3,580	381	230	29

多賀：決算内容の詳細につきまして、私多賀よりご説明いたします。

まず、10 ページ目をご覧ください。このスライドは、各セグメントの売上高及び営業利益の実績を、前年同期との比較でお示ししております。

ビニルアセテート及び機能材料は増収増益となりましたが、それ以外のセグメントは減益となりました。

[億円]

	2022年度上期	2023年度上期	増減
売上高	1,854	1,989	135
営業利益	336	402	66

【営業利益増減分析】



ポパール樹脂	世界的な需要減退により販売量は減少も、高付加価値品へのシフトを一層推進。
光学用ポパールフィルム	液晶パネルの在庫調整は一巡したものの、大型液晶ディスプレイの需要回復が遅れ出荷が減少。
水溶性ポパールフィルム	インフレによる買い控えなどの影響により、主に欧州で個包装洗剤向けの出荷が減少。
高機能中間膜	PVBフィルムの自動車向け需要の回復に加え、建築用途も堅調に推移。
〈エパール〉	食品包装用途が堅調に推移したことに加え、自動車用途の需要に回復が見られる。
主な増減要因	需要回復遅れや買い控え、在庫評価差額の影響を受けたものの、高付加価値品へのシフトなどにより、セグメント全体では増益。

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

11

次に、11 ページ目をお願いします。ここからはセグメント別に事業の状況をご説明いたします。

最初は、ビニルアセテートセグメントです。

当セグメントは、前年対比で増収増益となりました。各事業の販売の状況は、右上に記載のコメントをご覧ください。

営業利益は、前年同期比で 66 億円増加いたしました。需要の減退や生産調整の影響で、数量は 147 億円の減益要因となりました。また在庫評価差額などの影響を受けて、その他は 128 億円の減益要因となりました。一方で、高付加価値品へのシフトなどにより、売値・構成は 252 億円の増益要因となりました。

光学用ポパールフィルムは、液晶パネルの在庫調整は一巡したものの、大型液晶ディスプレイの需要回復は遅れております。また各事業において、在庫評価差額の影響も受けました。しかしながら、エパール、ポパール樹脂、PVB フィルムなどが貢献し、セグメント全体では増益を確保いたしました。

[億円]

	2022年度上期	2023年度上期	増減
売上高	319	318	△1
営業利益	25	△27	△52

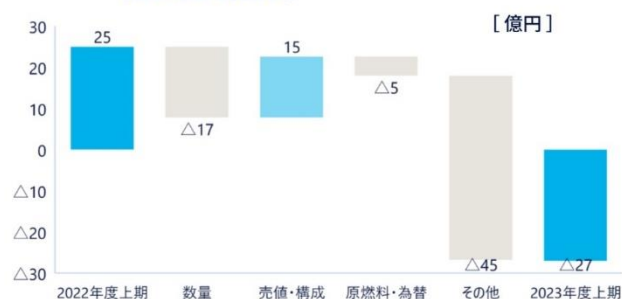
イソプレレンケミカル、
エラストマー

昨年後半から続く需要減退による販売量の減少に加え、市況悪化の影響を受ける。

〈ジェネスタ〉

自動車向けは回復の兆しが見られたものの、電気・電子デバイスの在庫調整の影響を受け販売量が減少。

【営業利益増減分析】



主な増減要因

価格改定を進めた一方で、稼働を開始したタイ拠点の減価償却費や経費が増加。需要減退や在庫調整の影響により販売量は減少。

次に、12 ページ目をご覧ください。

イソプレレンセグメントです。

当セグメントは、前年対比で減収減益となりました。各事業の販売の状況は、コメントをご覧ください。

価格改定の推進によって、売値・構成の合計は 15 億円の増益要因となりました。一方で、タイ拠点の減価償却費や経費が増加したことなどにより、その他は 45 億円の減益要因となりました。また、国内工場で原動費単価が上昇したことなどによって、原燃料・為替が 5 億円の減益要因になったことに加え、需要減や在庫調整の影響で、数量は 17 億円の減益要因となりました。三つの事業いずれも減益となり、セグメント全体では、52 億円の減益となりました。

[億円]

	2022年度上期	2023年度上期	増減
売上高	778	934	156
営業利益	33	57	24

メタアクリル	電子デバイスの在庫調整などによる販売量の減少に加え、原燃料価格上昇の影響を受ける。
メディカル	審美治療用歯科材料の販売が国内外で順調に推移。
環境ソリューション	北米の飲料水用途で需要が増え、活性炭の販売は堅調に推移。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	経費の増加、在庫評価差額の影響を、価格改定と販売構成の良化でカバー。
--------	------------------------------------

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

13

次に、13 ページ目をご覧ください。

機能材料セグメントは、前年同期比で増収増益となりました。各事業の状況は、右上のコメントのとおりです。

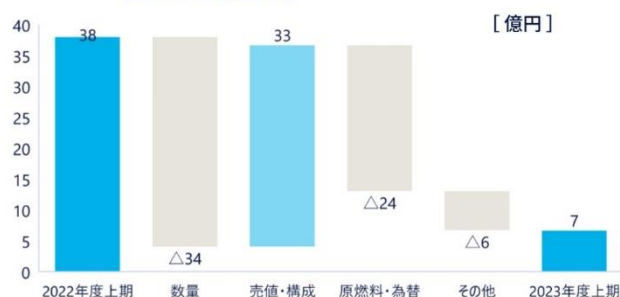
原燃料・為替は、原燃料価格上昇により 3 億円の減益要因に、その他は、販管費の増加や在庫評価差額の影響によって、22 億円の減益要因となりました。一方で、価格改定の進展と販売構成の良化により、売値・構成は 51 億円の増益要因となった結果、営業利益は、24 億円の増益となりました。事業別に申し上げますと、メタアクリルは在庫調整などの影響を受けて苦戦しましたが、メディカル及び環境ソリューションが好調でございました。

[億円]

	2022年度上期	2023年度上期	増減
売上高	318	302	△16
営業利益	38	7	△31

〈クラリーノ〉	スポーツ用途などで需要減退の影響を受け、出荷が減少。
繊維資材	〈ベクトラン〉が堅調に推移。ビニロンは自動車向けで回復の兆しが見られたものの、欧州の建材用途が低調。
生活資材	〈クラフレックス〉で外食産業の需要が低調。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	価格改定を進めるも、景気減速による需要低迷などの影響を受け出荷が減少。
--------	-------------------------------------

次に、14 ページ目をご覧ください。

繊維セグメントは、前年同期比で減収減益となりました。事業の状況はコメントのとおりです。

売値・構成は、33 億円の増益要因となったものの、需要低迷の影響を受け、数量は 34 億円の減益要因となりました。また、原燃料・為替は原燃料価格上昇によって、24 億円の減益要因になりました。この結果、3 事業いずれも減益となり、セグメント全体の営業利益は 31 億円の減益となりました。

[億円]

	2023年度上期	2022年度上期	増減
営業CF	576	214	363
投資CF*	△302	△308	6
フリーCF*	274	△94	368
設備投資 (受入ベース)	325	339	△14
減価償却費 (のれん償却費込み)	367	312	55
研究開発費	119	109	9

*投資CF、フリーCF：運用資金、M&A関連を除く

15 ページ目をご覧ください。このスライドでは、23 年度上期のキャッシュフロー及び主要な指標についてご説明いたします。

営業キャッシュフローは 576 億円、投資キャッシュフローはマイナス 302 億円、フリーキャッシュフローは 274 億円となりました。設備投資の受入ベースは、前年同期比 14 億円減の 325 億円となりました。減価償却費は、55 億円増の 367 億円、研究開発費は、9 億円増の 119 億円となりました。

[億円]

	2023年6月末	2022年12月末	増減
流動資産	5,359	5,339	20
固定資産	7,213	6,876	337
資産合計	12,573	12,215	357

	2023年6月末	2022年12月末
円／ドル（期末）	145	133
円／ユーロ（期末）	158	141

16 ページ目をご覧ください。このスライドでは、貸借対照表の資産の部を、昨年末と比較しております。

流動資産は、20 億円の増加となりました。これは、現預金が 181 億円減少した一方で、為替が円安に振れたことによって、売上債権が 62 億円、棚卸資産が 154 億円増加したことによるものです。固定資産は、設備投資による増加に加え、円安で海外子会社の固定資産の評価額が上がったことにより、337 億円の増加となりました。

[億円]

	2023年6月末	2022年12月末	増減
流動負債	2,021	2,213	△193
固定負債	3,214	3,317	△102
負債合計	5,235	5,530	△295
純資産合計	7,338	6,685	652
負債・純資産合計	12,573	12,215	357
自己資本比率	56.6%	52.9%	3.7%

	2023年6月末	2022年12月末
円／ドル（期末）	145	133
円／ユーロ（期末）	158	141

17 ページ目をご覧ください。このスライドでは、貸借対照表の負債・純資産の部をお示ししております。

負債は、長期借入金、コマーシャルペーパーや社債が減少し、295 億円の減少となりました。純資産は、652 億円の増加となりました。この結果、自己資本比率は 22 年度末から 3.7%上昇し、56.6%となりました。

2023年度 業績予想及び主要指標

kuraray

[億円]

	2023年度予想	2022年度	増減
売上高	8,100	7,564	536
営業利益	840	871	△31
経常利益	790	841	△51
親会社株主に 帰属する当期純利益	470	543	△73
1株当たり当期純利益	140円43銭	161円13銭	△20円70銭
1株当たり配当	50円※	44円	6円
設備投資(決定ベース)	770※	659	111
設備投資(受入ベース)	670※	726	△56
減価償却費(のれん償却費込)	740※	655	85
研究開発費	240	227	13

(※見直し)

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

18

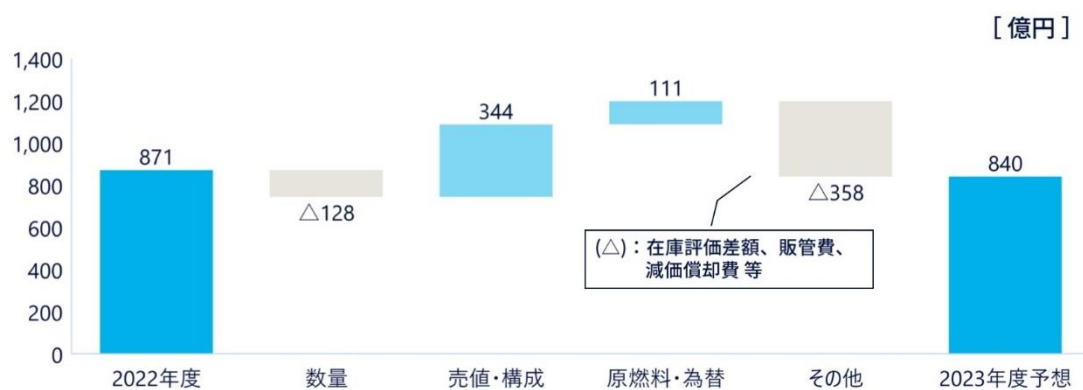
次に、18 ページ目をご覧ください。このスライドでは、23 年度の通期の業績予想についてご説明いたします。

売上高及び各利益につきましては、先ほど川原が申し上げたとおりでございます。

1 株当たりの当期純利益は、470 億円をベースに、140 円 43 銭となります。配当は、年間 50 円を予定しております。決定ベースでの設備投資は、770 億円となります。受入ベースは、倉敷事業所での光学用ポバールフィルム生産設備の増設などによって、670 億円を見込んでいます。減価償却費は、イソプレンのタイ拠点や、米国での活性炭製造設備などが稼働を開始することによって、85 億円増の 740 億円、研究開発費は、13 億円増の 240 億円となる見込みです。

2023年度 通期営業利益増減分析

kuraray



	2022年度	2023年度前提
円／ドル (平均)	132	138
円／ユーロ (平均)	138	148
国産ナフサ 千円／kl	75	66

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

19

19 ページ目をご覧ください。このスライドでは、営業利益予想の増減要因をお示ししています。

22 年中に交渉を進めました、製品の価格改定の効果が発現することもあるとあって、売値・構成は 344 億円の増益となる見込みです。一方で、販管費、減価償却費の増や、在庫評価差額の影響などで、その他が 358 億円の減益要因となることなどによって、トータルでは 31 億円の減益を見込んでおります。

セグメント別 売上高・営業利益比較

kuraray

[億円]

	2023年度予想 (2023年8月9日)		2022年度 実績		増減		2023年度予想 (2023年5月12日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,200	850	3,853	775	347	75	4,150	830	50	20
イソプレ	700	△70	656	43	44	△113	750	△25	△50	△45
機能材料	1,960	105	1,741	86	219	19	1,950	95	10	10
繊維	680	35	669	67	11	△32	690	45	△10	△10
トレーディング	620	50	588	51	32	△1	610	50	10	0
その他	440	10	521	27	△81	△17	440	10	0	0
調整額	△500	△140	△464	△178	△36	38	△490	△165	△10	25
合計	8,100	840	7,564	871	536	△31	8,100	840	0	0

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

20

次に、20 ページ目をご覧ください。このスライドでは、今回の修正予想を、前年度実績及び前回予想と比較してお示ししております。

イソプレと繊維は、厳しい事業環境を踏まえて減益の予想としておりますが、ビニルアセテートや機能材料は、高付加価値シフトと、自然環境、生活環境向上のニーズを着実に取り込み、増収増益となる予想でございます。

21 ページ目以降は、修正しました業績予想のセグメント別の利益の増減分析、及び詳細の計数情報となります。また、その後ろの 27、28 ページでは、先ほど川原よりご説明しました、企業価値向上に向けた取り組みに関連しまして、資本コストや資本の収益性に関する情報を載せております。参考までにご覧ください。

以上で、説明を終わります。ありがとうございました。